

# 未来に生きて働く探究力と省察性の育成

## 体育科の本質

体育科は、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する教科である。この資質・能力は、「(1)その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。(2)運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。(3)運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。」である。本校では、この3つの資質・能力を身につける＝「運動を楽しめる子」と考える。どうやって運動を楽しむのかを考え、取り組むことが探究している姿であるからである。自己やチームの能力に適した課題をもち、仲間とともに解決していく中で、運動への親しみを深めていく。課題を解決する中、技能の向上にもつながり、その満足感が他の単元でもやってみようという思いになるのである。これらが積み重ねられるよう、子どもが探究のプロセスを歩める学習過程を考えることが重要である。

## 体育科の目標及び育みたい探究力と省察性

体育科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。
育みたい探究力	自己やチームの能力に適した課題をもち、対象、他者、自己とかわりながら、それらの課題を解決しようと活動の仕方を選んだり工夫したりする資質・能力。
育みたい省察性	課題の解決に向けて、対象、他者、自己との対話を行いながら、自己やチームの変化に気付く資質・能力。

## 体育科における探究的な学びのイメージ

### 【課題を見つける】

問題発見  
課題設定  
解決の見通し

### 【動きを考察する】

課題解決に向けて、自分の経験や他者の活動の様子から、様々な方法を試す。

### 【課題を解決する】

自分に合った運動の行い方を見つける。そしてさらによりよい運動の方法を目指す。

## 探究力と省察性を育む指導

豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するためには、自己やチームの課題を解決すべく探究する「探究力」と、対象、他者、自己との対話を行いながら学習や行動を調整する「省察性」を育成する必要がある。そのためには、①学びの筋に沿った学習過程の工夫と、②立ち止まる手立てが重要である。①学びの筋に沿った学習過程の工夫とは、単元のゴールを見据え子どもがどんなことに問いをもつのかを考え単元を構成することである。単元途中では、思いをみとりながらその過程を修正していくことも考えられる。②立ち止まる手立てとは、対象、他者、自己との対話がより充実するように声をかけることである。活動の根拠を問うことにより、“わかってできた”ことを目指していく。また、困っている時の手立ても大切にする。活動の様子や学習カードに書かれた内容を基に個やチームに声をかけることや、場やルール工夫をすることなどが考えられる。

## 研究の評価

授業実践の中での子どもの思いをもとに、一人一人の子どもが「単元の中でどのように問いをもち続けたか」に視点をあて、研究をふり返る。学習カードの内容と支援の方法を照らし合わせる、実際の活動の様子を映像でふり返るなどをして、単元における個や集団の変容をみていく。そこから、学習過程の工夫と手立てが適切であったか、子どもたちは問いをもち続けたかを判断する。また、大学との連携により、「態度測定による体育授業診断法」を用い、量的分析も行き、質的分析と両面で進めていく。